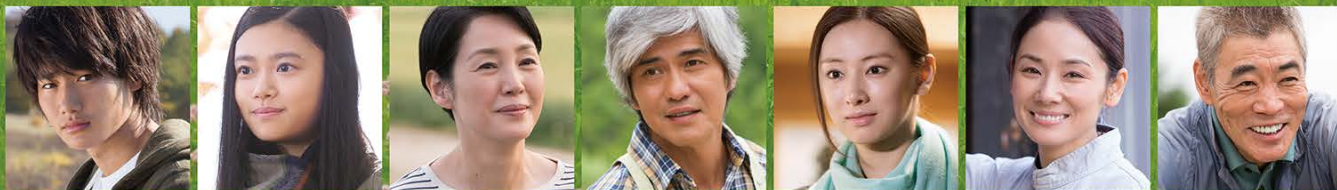


大切な人へ
のこしたいものは、
何ですか。

愛を積むひと

佐藤浩市 樋口可南子

「日本で最も美しい村」北海道・美瑛を舞台に、夫婦とそこに集う人々を優しく映し出す感動作。



佐藤浩市 樋口可南子 北川景子 野村周平 杉咲花 吉田羊 柄本明

原作：「石を積むひと」エドワード・ムーニー・Jr. (小学館文庫刊) 監督：朝原雄三 脚本：朝原雄三 福田卓郎

音楽：岩代太郎 劇中歌：「スマイル」ナット・キング・コール

制作・配給：アスミック・エース/松竹 制作プロダクション：松竹撮影所 製作：「愛を積むひと」製作委員会

6月20日(土) ロードショー

大切な人へ
のこしたいものは、何ですか。

次々と届く、亡き妻からの手紙。それが人々の想いをつなげていく――。

愛を積むひと

佐藤浩市 樋口可南子

北川景子 野村周平 杉咲 花
森崎博之 佐戸井けん太 岡田義徳
吉田 羊 柄本 明

監督：朝原雄三 脚本：朝原雄三 福田卓郎 音楽：岩代太郎 劇中歌：「スマイル」ナット・キング・コール
原作：「石を積むひと」エドワード・ムーニー・Jr. (小学館文庫)

製作：アスミック・エース/松竹 WOWOW、KDDI、読売新聞社/北海道テレビ、TBS サービス、制作・配給：アスミック・エース/松竹
制作プロダクション：松竹撮影所 撮影特別協力：北海道美瑛町 助成：委文化庁文化芸術振興費補助金
ai-tsumu.jp @aitsumu_movie #愛積む ©2015「愛を積むひと」製作委員会

6/20(土)

「日本で最も美しい村」北海道・美瑛を舞台に、夫婦とそこに集う人々を優しく映し出す感動作。







「元気で暮らしていますか。
この手紙を読んでいるということは、
私はもうあなたの傍にいないということですね。」

解説

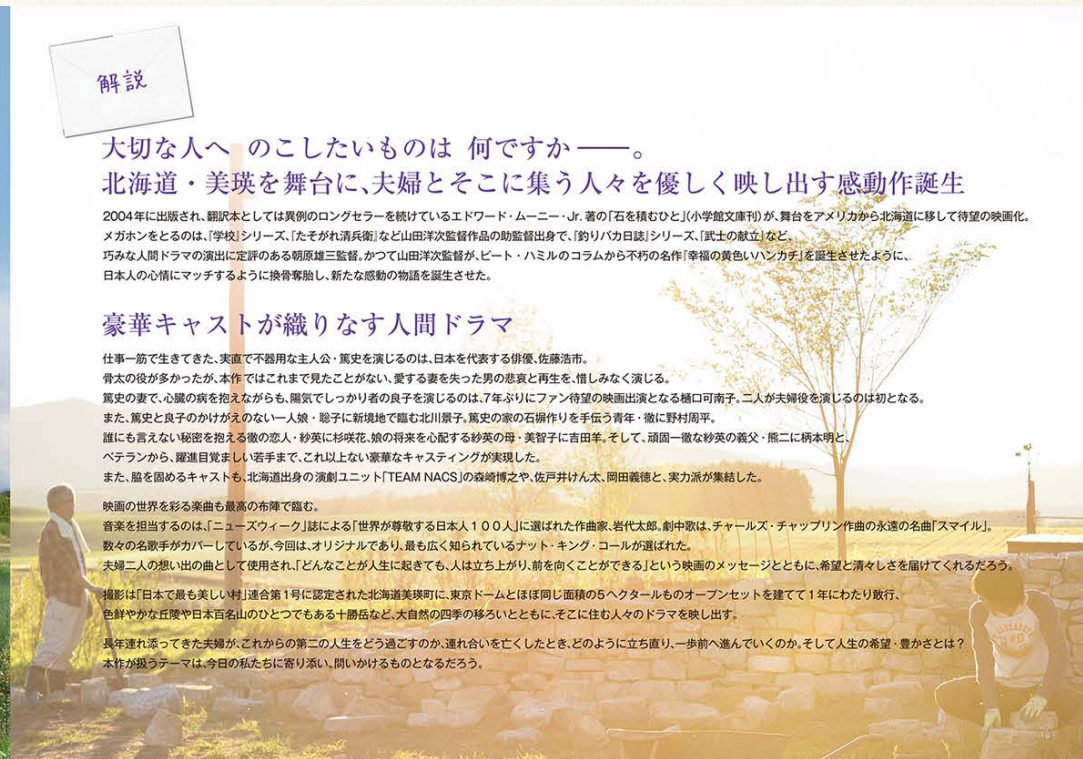
大切な人へ のこしたものは 何ですか——。
北海道・美瑛を舞台に、夫婦とそこに集う人々を優しく映し出す感動作誕生

2004年に出版され、翻訳本としては異例のロングセラーを続けているエドワード・ムーニー・Jr. 著の『石を積むひと』(小学館文庫刊)が、舞台をアメリカから北海道に移して待望の映画化。メガホンをとるのは、『学校』シリーズ、『たそがれ清兵衛』など山田洋次監督作品の助監督出身で、『釣りバカ日誌』シリーズ、『武士の献立』など、巧みな人間ドラマの演出に定評のある朝原雄三監督。かつて山田洋次監督が、ビート・ハミルのコラムから不朽の名作『幸福の黄色いハンカチ』を誕生させたように、日本人の心情にマッチするように換骨奪胎し、新たな感動の物語を誕生させた。

豪華キャストが織りなす人間ドラマ

仕事一筋で生きてきた、実直で不器用な主人公・篤史を演じるのは、日本を代表する俳優、佐藤浩市。骨太の役が多かったが、本作ではこれまで見たことがない、愛する妻を失った男の悲哀と再生を、惜しみなく演じる。篤史の妻で、心臓の病を抱えながらも、陽気でしっかり者の良子を演じるのは、7年ぶりにファン待望の映画出演となる橋口可南子。二人が夫婦役を演じるのは初となる。また、篤史と良子のかけがえのない一人娘・聡子に新境地で臨む北川景子、篤史の家の石掃作りを手伝う青年・徹に野村周平。誰にも言えない秘密を抱える徹の恋人・紗英に彩咲花、娘の将来を心配する紗英の母・美智子に吉田羊。そして、頑固一徹な紗英の義父・熊二に柄本明と、ベテランから、躍進目覚ましい若手まで、これ以上ない豪華なキャストینگが実現した。また、顔を固めるキャストも、北海道出身の演劇ユニット「TEAM NACS」の森崎博之や、佐戸井けん太、岡田義徳と、実力派が集結した。

映画の世界を彩る楽曲も最高の布陣で臨む。音楽を担当するのは、「ニュースウィーク」誌による「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれた作曲家、若代太郎。劇中歌は、チャールズ・チャップリン作曲の永遠の名曲「スマイル」。数々の名歌手がカバーしているが、今回は、オリジナルであり、最も広く知られているナット・キング・コールが選ばれた。夫婦二人の想い出の曲として使用され、「どんなことが人生に起きても、人は立ち上がり、前を向くことができる」という映画のメッセージとともに、希望と清々しさを届けてくれるだろう。撮影は「日本で最も美しい村」連合第1号に認定された北海道美瑛町に、東京ドームとほぼ同じ面積の5ヘクタールものオープンセットを建てて1年にわたり敢行、色鮮やかな丘陵や日本百名山のひとつでもある十勝岳など、大自然の四季の移ろいとともに、そこに住む人々のドラマを映し出す。長年連れ添ってきた夫婦が、これからの第二の人生をどう過ごすのか、連れ合いを亡くしたとき、どのように立ち直り、一歩前へ進んでいくのか、そして人生の希望・豊かさは？本作が扱うテーマは、今日の私たちに寄り添い、問いかけるものとなるだろう。





「私が死んだあと、
あなたの一人暮らしを想像すると、
心配なことが一杯あって
気が気ではありません。」

物語

亡き妻から届いた手紙。それが彼を新たな人生へと導いていく——

第二の人生を大自然に包まれた美しい土地で豊かに過ごそうと、東京下町の工場をたたみ、北海道に移り住むことにした夫婦、篤史と良子。
以前に外国人が住んでいたという瀟洒な家を手にいれ、良子は野菜やガーデン作り、家の内装のアレンジなどささやかながらも豊かな生活を満喫していた。
一方、仕事人間から仕事がなくなった途端、毎日手持ち無沙汰で暇を持て余す篤史。見かねた良子は、長年の憧れでもあった家の周りの石崩れを篤史に頼む。
そんなある日、良子が入院することに、以前から患っていた心臓の病が悪化していたのだ。心配させまいと夫に病状を言わず、一時退院し、明るく振る舞う良子。
そんな良子に、「いつしか自分だけのネックレスになれば」と、結婚以来毎年贈り続けていた一粒の真珠を、篤史は今年も誕生日にプレゼントする。
笑顔で受け取る良子を見つめながら、幸せな時が続くことを願う篤史。

しかし、その願いは叶わなかった。突然訪れた良子の最期。悲しみにくれる篤史のもとにある日、良子からの手紙が届いた。
驚く篤史。自分の死期を悟った良子が、篤史のこれからの人生を案じ、たくさんの手紙を、二人の家に隠していたのだ。
手紙に書かれた良子の想いに触れ、閉ざされた心が溶け周りの人の人生に関わっていく篤史。
自ら犯した過ちから立ち直ろうと、石崩れ作りを手伝いに来る青年・徹や、その恋人・紗英との交流、
頑固だが愛情深い紗英の義父・熊二との友情。
篤史が良子を思いながら一つ一つ積み上げた石に、それぞれの人間ドラマが重なっていく——。
そして、ある出来事がきっかけで長年疎遠になっていた狼・聡子と再会し……。



キャスト

佐藤浩市 (さとう・こういち) / 小林篤史

1960年生まれ、東京都出身。80年、TVドラマ「続・続 事件～月の景色～」(NHK)でデビュー。映画初出演作品となる「青春の門」(81)で日本アカデミー賞とブルーリボン賞の新人俳優賞を受賞。その後「忠臣蔵外伝 四谷怪談」(94)で日本アカデミー賞最優秀主演男優賞、「ホワイトアウト」(00)、「壬生義士伝」(03)で日本アカデミー賞最優秀助演男優賞を受賞。主な映画出演作は「ザ・マジックアワー」(08)、「誰も守ってくれない」(09)、「最後の忠臣蔵」(10)、「1のぼうの城」(12)、「あなたへ」(12)、「草紙の轉子」(13)、「人類賛金」(13)、「清須会議」(13)、「許されざる者」(13)、「パンクローバーの朝日」(14)など。

「一人で家に閉じこもったりしないで、
友だちをつくってください。
若い人でも、お年寄りでも。」

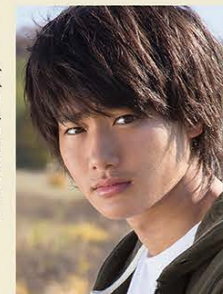
樋口可南子 (ひぐち・かなこ) / 小林良子

1958年生まれ、新潟県出身。80年に「成吉思汗の夜」で映画に初出演し、81年ゴールデングローブ新人賞を受賞。92年には、「陽炎」(四万十川)にて、第15回日本アカデミー賞最優秀主演女優賞。また、2002年の「阿弥陀堂だより」(05年の明日の記憶)で、夫を支える献身的な妻役を演じ、2件ともに日本アカデミー賞最優秀主演女優賞を受賞。演技派女優として人気を不動のものとする。近年では、11年放送のTVドラマ「おひさま」(NHK)で日本放送映画芸術大賞最優秀助演女優賞を受賞。TVCMなど活躍の場を広げている。「アキレスと亀」(08)以来、本作が7年ぶりの映画出演となる。



北川景子 (きたがわ・けいこ) / 小林聡子

1986年生まれ、兵庫県出身。2003年に女優デビュー。06年、「間宮元帥」で映画初出演。「謎解きはディナーのあとで」(11/CX)、「悪夢ちゃん」(12/NTV)、「独身貴族」(13/CX)、「HERO(第2期)」(14/CX)など、立て続けに話題のTVドラマに出演する一方、「花のあと」(10)、「闘 またたき」(10)、「パラダイス・キス」(11)等主演映画作品も多数あり、TV映画と幅広く活躍する今もっとも期待される女優の一人。近年の主な映画出演作は、「映画 謎解きはディナーのあとで」(13)、「ルームメイト」(13)、「抱きしめたいー真実の物語ー」(14)、「悪夢ちゃん the movie」(14)など。公開待機作に「HERO」(14)、「ようなののようなもの」がある。



野村周平 (のむら・しゅうへい) / 杉本徹

1993年生まれ、兵庫県出身。2011年、「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら」で映画デビュー。その後、「天国からのエール」(11)、「らもトリップ」(12)、「スープ〜生まれ変わりの物語〜」(12)、「江ノ島プリズム」(13)、「男子高校生の日曜日」(13)と数々の作品に出演。14年は、「13歳」、「クジラのいた夏」、「日々ロック」と主演作が立て続けに公開され、TVドラマではCX「僕のいた時間」(若者たち 2014)に出演など、今注目の若手俳優の一人。今年は「ピリギャル」も公開される。



杉咲花 (すぎさき・はな) / 上田紗英

1997年生まれ、東京都出身。2012年、「桜蘭高校ホスト部」の映画に出演後、「ナゾトキネマ マダム・マーメイドの異常な謎〜出題編〜」(13)、「思い出のマーニー」(14/声の出演)、「イン・ザ・ヒーロー」(14)などに出演。15年も、「職・職つ人」、「トイレのピエタ」に出演。TVドラマ「夜行観覧車」(13/TBS)、「なぞの転校生」(14/TX)、「学校のカイダン」(15/NHK)と話題作へ出演している。14年11月に発表された「日経トレンド」2015年の顔」に選ばれた、注目の若手女優。



森崎博之 (もりさき・ひろゆき) / 平間造園の親方

1971年生まれ、北海道出身。96年、北海学園大学演劇研究会出身の安田・大泉・戸次・首尾と共に演劇ユニット「TEAM NACS」を結成、リーダーを務める。2012年、自身が演出・原案を手がけた「TEAM NACS ニッポン公演「WARRIOR」〜唄い続ける侍ロマン〜」では全国18カ所にて70,000人を動員した。03年、「river」で映画初出演。主な映画出演作に、「はくたちと駐在さんの700日戦争」(08)、「ガール」(12)、「思い出のマーニー」(14/声の出演)などがある。



佐戸井けん太 (さとい・けんた) / 刑事

1957年生まれ、千葉県出身。劇団夢の遊園社を経て、『踊る大捜査線』シリーズを筆頭に人気を博し、濃厚な役から幅広い役まで幅広い演技力で知られる。近年の主な作品は、ドラマ『スペシャリスト』シリーズ(EX)、『紙の月』(14/NHK)、『隠岐捜査』(14/TBS)、大河ドラマ『軍師官兵衛』(14/NHK)、映画『踊る大捜査線 THE FINAL 新たなる希望』(12)、『くろねこルーシー』(12)、『俺むん』(15)などがある。



岡田義徳 (おかだ・よしのり) / 鈴原

1977年生まれ、岐阜県出身。94年、TVドラマ『アリよさらば』(TBS)で俳優デビュー。2002年、TVドラマ『木更津キャッツアイ』(TBS)のうっちー役を演じ、幅広いファン層から人気を得る。その後も様々な役柄を演じ、多数の作品に出演している。主な映画出演作は、『太平洋の奇跡ーフォックスと呼ばれた男ー』(11)、『ロック〜わんこ〜』(11)、『神様のカルテ』(11)、『現金ラジマくん』(12)、『H-K / 実態仮面』(13)、『ばしゃ馬さんとビッグマウス』(13)、『女子ーズ』(14)、『ガキ☆ロック』(14)など。

「古い石がその上に積まれる新しい石を支えるように、私たちが毎日を精一杯積み上げていくことが、次の世代の生きる支えとなるのね。」



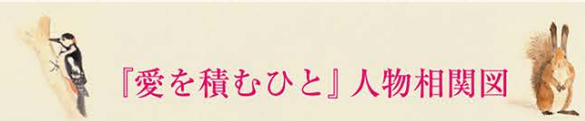
吉田羊 (よしだ・よう) / 上田美智子

福岡県出身。舞台女優としてキャリアをスタートさせ、近年ではドラマや映画に多数出演する実力派注目女優。主な出演作は、TVドラマ『純と愛』(12/NHK)、『町医者ジャンボ』(13/NTV)、『刑事のまなざし』(13/TBS)、『HERO 第2期』(14/CX)、『ウロボロス』(15/TBS)、映画『江ノ島プリズム』(13)、『映画 訪れたニタの社員食堂』(13)、『六月燈の三姉妹』(13)、『赤々煉恋』(13)、『魔女の宅急便』(14)、『恋とオンチの方程式』(14)、『幕末高校生』(14)、三谷幸喜脚本・演出の舞台『国民の映画』(11、14)など多数。今年、『ビリギャル』、『脳内ポイズンベリー』、『HERO』も公開される。



柄本明 (えもと・あきら) / 上田熊二

1948年生まれ、東京都出身。自由劇場を経て、76年劇団東京乾電池を結成。演劇活動と並行して数多くの映画やドラマで活躍。映画『カンゾー先生』(98)では、報知映画賞最優秀主演男優賞、日本アカデミー賞最優秀主演男優賞をはじめ、その年の映画賞を席巻した。その後も多くの作品で映画賞を受賞し、2011年には紫綬褒賞を受賞。近年の主な映画出演作に『悪人』(10)、『神様のカルテ』(11)、『ぼなご グローブとジンベイザメ』(13)、『さいるいソウ』(13)、『許さざる者』(13)、『判例にたずねよ』(13)、『WOOD JOB!』(14)、『IE! 生きる』(15)などがある。



『愛を積むひと』人物相関図



夫婦

小林良子 (榎口可南子)
心臓の病を抱えながらも、
陽気でしっかり者の妻



小林篤史 (佐藤浩市)
仕事一筋で生きてきた、
実直で不器用な夫

一人娘



小林聡子 (北川景子)
父親と長年疎遠となっている娘



親方 (森崎博之)
平間造園の親方



上田熊二 (柄本明)
頑固一徹な紗英の義父



上田美智子 (吉田羊)
娘の将来を心配する
紗英の実母

一人娘



杉本徹 (野村周平)
平間造園の見習い

恋人



上田紗英 (杉咲花)
徹の中学時代の同級生

石塚作りを手伝う

演出

監督・脚本／朝原雄三

1964年生まれ、香川県出身。高校時代から8ミリ映画製作を始める。京都大学文学部を卒業後、87年、松竹入社。95年、『時の罅』で監督デビュー。同年、コメディイに挑戦した『サラリーマン専科』でもその実力を発揮する。その後、『学校』シリーズや『たそがれ清兵衛』(02)などの作品で助監督を務める。2003年、『釣りバカ日誌 14 お巡路大バニック!』の監督を務め、人気シリーズに新たな息吹を吹き込み、以降、『釣りバカ日誌 20 ファイナル』(09)までの7作品に監督として携わった。その他、第3回 WOWOW シナリオ大賞受賞作、ドラマW『謎い目のゆくえ』(12)、向田邦子ドラマスペシャル『蛇姫のごとく』(12/TX)、映画『武士の献立』(13)などを手掛ける。『釣りバカ日誌 15 ハマちゃんに明日はない?』で、2004年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した。

コメント

アメリカ小説の映画化に当たって、登場人物も物語もすっかり変更することになってしまいましたが、原作者が示してみせてくれた人生の理想に対する期待だけは生かすことが出来たように思います。自分の生きてきたこれまで、そしてこれからに思いを巡らせたり、もう亡くなってしまった人のことをふと思い出したり、若い人たちの輝きがとても眩しく貴重に感じたり、そんなことの多くなった世代の方々にご覧いただければと思います。

原作



「石を積むひと」(小学館文庫刊)

2002年にアメリカで出版され、夫婦間、世代間において生き方や愛し方を改めて考えるきっかけとなる作品として評価される。
2004年に日本で出版。翻訳本としては異例のロングセラーを続ける。映画とは異なった感動のラストが楽しめる。
著/エドワード・ムーニー・Jr. 訳/杉田七重

ノベライズ「愛を積むひと」(小学館文庫刊) 2015年5月7日頃発売予定



劇中歌



「スマイル」 (ナット・キング・コール)
 「スマイル」は、1936年アメリカで公開されたチャールズ・チャップリンの映画「モダン・タイムス」で、インストルメンタルのテーマ曲として制作された。作曲は、チャップリン本人によるもの。1954年に、ジョン・ターナーとジェフリー・パーソンズが歌詞を加え、ナット・キング・コールによって歌われ、チャート入りを果たす。「スマイル」は、チャップリンの映画で使用されて以来、マイケル・ジャクソンなど数多くのアーティストにカバーされ、現在も世界中の人々に愛されている名曲だが、オリジナルであるナット・キング・コールの歌唱が強く人々の心に残っている。



ナット・キング・コール (Nat King Cole)
 1919年3月17日アラバマ州モンゴメリー生まれ(諸説あり)。その後シカゴに移住。12歳から父親の教会でオルガンを弾き、合唱団で歌い始める。1937年にキング・コール・トリオを結成。ピアニスト＆シンガーとして活動。1943年キャピトルと契約。1944年に自作曲「ストレイト・アップ・アンド・フライ・ライト」を大ヒットさせて以来20数年間ポピュラー・ヒット・チャートの常連になる。1946年「フォー・センチメンタル・リズンズ」が初のポピュラー・チャートNo.1になる。「ネイチャー・ボーイ」「モナ・リザ」「トゥー・ヤング」などのNo.1ヒットを記録。1950年には娘のナタリーが誕生。1951年トリオを解散する。1956年黒人で初めて全国ネットワークのNBCで自分のショーを持つ。「セントルイス・ブルース」などの映画にも出演した。1961年に初来日。1965年2月15日肺がんの為40代半ばの若さで死去。
 ©ユニバーサル ミュージック

Smile though your heart is aching
 Smile even though it's breaking
 When there are clouds in the sky, you'll get by
 If you smile through your fear and sorrow
 Smile and maybe tomorrow
 You'll see the sun come shining through for you

微笑んで、心が痛むときも
 微笑んで、心が壊れそうなきも
 空に雲が立ち込めていても、乗り切れるさ
 怖くても悲しくても微笑んで
 微笑んでいればきっと明日には
 陽の光が君のために輝くことだろう

Light up your face with gladness
 Hide every trace of sadness
 Although a tear may be ever so near
 That's the time you must keep on trying
 Smile, what's the use of crying?
 You'll find that life is still worthwhile
 If you just smile

満面の笑みで輝かせて
 哀しみの跡はすべて隠して
 涙がこぼれ落ちそうになっても
 そんな時こそぐっとこらえるんだ
 微笑もうよ、泣いて何になるんだい？
 いつかきっと報われる時がくる
 君がただ微笑んでいればね

That's the time you must keep on trying
 Smile, what's the use of crying?
 You'll find that life is still worthwhile
 If you just smile

そんな時こそぐっとこらえるんだ
 微笑もうよ、泣いて何になるんだい？
 いつかきっと報われる時がくる
 君がただ微笑んでいればね

音楽

音楽 / 岩代太郎

1965年生まれ、東京都出身。東京芸術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院修了。映像音楽を中心に幅広いジャンルで活躍。映画「血と骨」(04)、「弾しくれ」(05)、「春の嵐」(05)で日本アカデミー賞優秀音楽賞、100の子供たち(08)で毎日映画コンクール音楽賞、「レッドクリフ」(08)で香港金像奨最優秀音楽賞を受賞。13年「東日本大震災復興支援 音楽プロジェクト 魂の歌」を発起人として立ち上げるなど活動の場を広げている。他に映画で「殺人の追憶」(03)、「カムイ外伝」(09)、「聯合艦隊司令長官 山本五十六 太平洋戦争70年の真実」(11)、「許されざる者」(13)、「刑州にたずねよ」(13)、「武士の軌跡」(13)。TVではNHK大河ドラマ「葵」徳川三代(00)、「義経」(01)等の代表作がある。今後もジョン・ワー監督の新作映画「The Crossing」の劇場公開を控えている。



© shinsuke vnamoto

「愛を積むひと」オリジナル・サウンドトラック 2015年6月10日(水)発売

価格：2,500円(税込) 品番：SOST-1012 発売元：SHOCHIKU RECORDS 販売元：Sony Music Marketing Inc.

JASRAC# 1501237-601

SMILE
 Words by John Turner & Geoffrey Parsons
 Music by Charles Dixon
 ©1954 by BOWNE CO.
 All rights reserved. Used by permission.
 Rights for Japan administered by NICHON, INC.

プロダクション
1-1

「大切なものを失っても、傷ついた心は取り戻すことができる」

映画「愛を積むひと」の原作はエドワード・ムーニー・Jr. の著書「石を積むひと」(小学館文庫刊)である。人生の最終章を迎えた老夫婦が、互いを思いやりながら、やり残したことについて思いを馳せていく。限られた命を自覚する妻は、子育てや日々の生活に追われて、ずっと後引してしてきた長年の夢を夫へと託す——それは家の周囲をぐるりと囲む石柵の完成であった。年齢を重ねた人なら誰でも思い当たる、胸の奥底にも転がっている夢の欠片、それを実現する過程で訪れる試練と人からの手助けの物語。それが「石を積む」という行為に集約される。夫婦や親子の関係、そして周りにいる人々との関係を静かに愛おしく描いた原作のテーマを日本映画で再現したいという監督とプロデューサーの提案に、エドワード・ムーニー・Jr. は快諾。物語の背景にある米国社会の問題の描き方や、国も登場人物も変更する映画に不安がなかったといえは嘘になるが、実際映像を見て「原作のテーマを深く理解してくれた」と涙が止まらなかったと語る。また、映画化において、主人公夫婦の年齢を原作の70代の設定から、定年後の人生設計をリアルに描き始める50代後半へと世代変更した。父親が大黒柱として家族を支えていた最後の昭和世代の夫婦を中心に据えることで、互いに思い合っているのにそれを伝えるのが不器用な夫婦の姿を浮かび上げらせ、相手に愛情を伝える大切さを知らしめた。更に、親子、さらには血の繋がりを超えた絆や縁を描こうと、原作にはない北川景子演じる娘の恋愛問題を巡る勘当と和解、そして柄本明演じる牧場主の義理への愛のエピソードを加えたことで、より希望に満ちた、豊かな広がりのある物語となった。

朝原雄三監督が新しい感覚で蘇らせる人間ドラマ。

朝原雄三監督は、代表作の「サラリーマン専科」シリーズや「釣りバカ日誌」シリーズでのコメディタッチな演出で広く世に知られているが、本作では、妻の希望を叶えるために愚直に石を積み不器用な男を、同じ夫婦の物語でも前作「武士の軌跡」とはまた違う、ウィットと情感に富んだ演出で、登場人物たちの魅力を更に際立たせるなど、その手法は、新たな広がりを見せている。特に、朝原監督が本作でこだわったのは、人生の春夏秋冬を1年かけて描く丹念な映画作り、新天地へと転居してきた夫婦のつわもの間の穏やかで幸せな新生活と、喪亡ごとの歴史ひとの哀愁の日々の対比を浮かび上がらせるため、じっくりと時間をかけて撮影を行った。

弱さを露呈する夫を演じた佐藤浩市。

監督とプロデューサーが今回最もこだわったのが、妻の死の打撃を受けて、人間としての弱さを露呈する男性の心情であり、当初から「佐藤浩市さんしか考えられなかった」と言う。近年、理想の上司像として名前があがったり、ハードボイルドで舞臺な役が多かったが、だからこその頼りない姿すべき女々しさを演じて欲しかった。プロデューサーたちがイメージしたのは「妻がいないと日常生活において何もできない最後の昭和の男」、年相応の歳や苦労を表すために、今回、初めて地味である白い髪のまま真史という人物になった。また、新生活を送る北海道の新居のリビングに置かれたレコードの枚々は、音楽好きで知られる佐藤の私物のアルバムがそのまま持ち込まれ、同世代の男性の歴史を自ら構築した。また、彼が本作において念頭にあったというテーマは「人を許すこと」という。広く知られるように朝原雄三監督は佐藤の父親である俳優、三國連太郎と「釣りバカ日誌」シリーズで長年組んだ間柄。佐藤は「三國と一緒にやってきたスタッフが多いので、みんな僕の後ろに三國を見るだろうし、逆に言うと僕は朝原さんを含めて、スタッフの後ろにまた三國を見る。そんな、普段なかなか無い「相関性がありました」と振り返る。撮影中は佐藤の演じたこき三國の面影を重ね、思わず涙ぐむ朝原組のスタッフも。そのことへの照れ隠しが、「僕は三國ほど面倒くさい役者じゃないです」との冗談も佐藤の口から飛び出した。



良子に女性としての凄みを感じた樋口可南子。

樋口可南子の演じた良子は長年、夫を支え続け、無理を重ねた結果、重い臓病を患う。原作では、自分の残り少ない日々を夫と共に分かち合う設定であったが、映画では、夫に病状を悟られないように明るく振る舞う妻が印象的に演出されている。自らの死期を知り、その現実と直視しながらも、周囲に気付かれないように日常生活を送る——といったどれ程の恐怖だっただろうと、樋口は語る。その恐怖と戦いながらも、いつも彼女が料理を作っているキッチンで、石を積み重ねていくのを見つめながら、彼女は夫宛に手紙を書く、そのシーンに、良子の女性としての凄みを感じたとも言う。そして美瑛という美しいロケ地を感じ、夫役の佐藤浩市さんの芝居を見て、とんだんこの役が深まっていくのが嬉しかったとも。樋口が撮影中にずっと自問自答していたというのが「命の時間が長くないと知った妻は、残された時間をどうと過ごすの？ 自分のため、夫のため、娘のため、何をしたいだろうか?」、その答えは、映画を見た人たちが、いろいろと聞いてみたいと語る。

結婚生活の積み重ねの象徴となる真珠のネックレス。

原作から引き継いだ映画における重要なアイテム——それは夫から妻へ、毎年の誕生日プレゼントとして贈られる真珠の一粒である。景気がいい時悪い時、その年を表すかのように大ききも色もそれぞれ、30年と年月を重ねることで、ようやくひとつのネックレスとなり、妻の胸元を美しく飾る。今回、映画のために協力したのが銀座に本店を構える、世界を代表するジュエリーブランドのミキモトである。脚本の内容に感銘したミキモトが、映画では初めてオリジナルデザインから手掛けることになった。現在、ミキモトで真珠のパーツ販売はしていないが、映画のために、一から相談のり、朝原監督の「真珠のネックレスから、主人公夫婦の歴史の積み重ねが浮かび上がってくるようにしたい」との思いを叶えるべく、真珠の粒一つ一つの色、形、大きさ等を監督とともに吟味、選定し、3か月を経て完成に至った。

隠し味が効いている妻が作る家庭の味。

本作の料理を手掛けるのはフードスタイリストの感島奈美。「かもめ食堂」、「南極料理人」、「のんちゃんのリ弁」など、料理が主役ともいえる映画を手掛けてきた。ただ、本作では料理そのものにカメラがクローズアップする回数は少ない。これには理由があり、「良子が特別感なく出していく料理の数々が、いなくなって初めて、かけがえのないものだったと歴史が気づくようになるため」。つまり、真史の自覚を迫るための料理の見え方にこだわっている。その意味で、料理が大きな意味を持つのは良子亡き後のこと。原作では、夫が好きたピクニック料理を近隣の若い少女に託すという設定になっていたが、本作で杉英が真史に作る一品は、一見、普通の味噌汁ながら、バターで炒めたベーコンが入っている洋風仕立てのもの。味見をした瞬間、真史が驚く仕掛けとなっていて、「隠し味の効いた献立を考えたところに、感島さんの発想の素晴らしさがある」とプロデューサーは語る。

人生のやり直しの場となる北海道、美瑛町の四季の風景と、100メートルに及ぶ石柵。

映画のもうひとつの主役と言ってもいいのが、真史と良子が引越す美瑛町の美しい風景と彼らの家。そして大小さまざまな石を組み合わせて積み上げる石柵である。当初はロケ地として、日本中のあちこちの場所候補に挙がったが、プロデューサー陣が良子の気持ちになり代わって、「人生をやり直せるならば、絶対にここに住んでみたい」という願望を話し合った結果、「日本で最も美しい村」連合第1号に認定された北海道美瑛町へと行き着いた。素晴らしい風景を生かすように、スクリーンサイズもシネマスコープに決定し、上野彩香カメラマンをはじめ、撮影部は天候や季節に応じ、また誰も見たことのない美瑛の風景を切り取っていった。映画化にあたって、朝原組が最も大切にしたいのが、人は支え合っていること象徴となる石柵の作業をしっかりと見せること。そのために、1年の間、ときに100人近い映画スタッフが昼夜に渡って作業できる空間が必要だった。最終的には、町所有の電波塔の跡地——これまで20年近く休耕地で、町民すらもここからの美瑛の景色は見たことがないという特別な場所に決定。美瑛町の全面舗装が整備され、そこに夫婦の家が建築された。そして、この映画の縁の主役ともいえる石柵、撮影は順通りではないので、一度完成させた石柵を翌日には取り壊さなければならない等、撮影は困難を極めたが、旭川市の町内団体の協力と美術部の不眠不休の作業により、良子への思いを込めた石柵の撮影は無事予定通り終了した。二人の家と石柵は今後も保存される予定である。

text by yuka kimbara

舞台

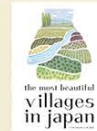


北海道・美瑛町

北海道のほぼ中央で、道内第2の都市「旭川市」と「富良野市」の中間に位置する美瑛町は、十勝岳連峰の裾野に広がる丘陵地帯に、なだらかな曲線が織り成す畑作地帯の風景がパッチワークのように続く雄大な農村景観を作り出し、「丘のまちひえい」と呼ばれている。面積は、東京23区の広さとほぼ同じで、その70%以上を山林が占めている。また、約15%を畑地が占め、これを中心に「丘のまち」の美しい景観を形成している。

豊かな自然をはじめ、雄大な大雪山国立公園十勝岳連峰と山麓に広がる波状丘陵地帯で営まれている農業が織りなす四季の景観が人々に感動を与え、全国的に有名となり観光客が後を絶たない。

2005年にスタートした「日本で最も美しい村」連合の第1号に認定された。



「日本で最も美しい村」とは？

NPO法人「日本で最も美しい村」連合は、1982年にフランスで始まった「フランスで最も美しい村」活動に範をとり、失ったら二度と取り戻せない日本の農山村の景観や環境、文化を守り、将来にわたって観光的付加価値を高め、地域資源の保護と地域経済の発展を図ることを目的に、2005年10月に美瑛町を含む全国の7つの村からスタートした。平成の大合併として市町村合併が促進され、小さくても素晴らしい地域資源や美しい景観をもつ村の存続が難しくなって来た時期、最も美しい村としての自立を目指す運動として発足。

5年ごとに入会資格審査を実施、最も美しい村づくりの基本理念が継承されているか、より美しい村づくりを目指して運動が定着しているかどうかを審査しており、現在、54町村・地域が加盟。生活の営みの中で、長い歴史に育まれた日本の多様な美しさを守っている。また、「日本で最も美しい村」連合は2010年に「世界で最も美しい村」連合会に加盟、2015年には世界連合会の総会が美瑛町で開催される。



「願っていた北海道で暮らしはじめたばかりなのに、
あなたを残して逝ってしまうのを、どうか許してちょうだい。
でも人生の最後に、この家で暮らせたことは本当に幸せでした。」

CAST

小林篤史 佐藤浩市
 小林良子 樋口可南子
 小林聡子 北川景子
 杉本 徹 野村周平
 上田紗英 杉咲 花
 平間造園の親方 森崎博之
 刑事 佐戸井けん太
 鈴原 岡田義徳
 上田美智子 吉田 羊
 上田熊三 柄本 明

STAFF

監督：朝原雄三
 脚本：朝原雄三 福田卓郎
 原作：「石を積みむひと」エドワード・ムーニー・Jr. (小学館文庫刊)
 音楽：岩代太郎
 劇中歌：「スマイル」
 歌：ナット・キング・コール

エグゼクティブ・プロデューサー：豊島雅郎 依元一孝 小西直人
 エグゼクティブ・スーパーバイザー：深澤 宏
 プロデューサー：荒本美也子 小松貴子 伏見朋子
 製作統括：前島和子 高橋敏弘 青木竹彦
 エグゼクティブ・プロデューサー：所 重紀

撮影：上野彰吾 (J.S.C)
 美術：須江大輔
 照明：土山正人
 録音：鈴木 康
 編集：石島一秀
 装飾：吉村昌博
 スクリプター：宮下こずみ
 映像技術：前川達彦

VFXスーパーバイザー：観野秀二 (IMAGICA)
 音楽プロデューサー：小野寺重之
 キャスティング：田端利江
 衣裳：丸山佳奈
 スタイルリスト (樋口可南子)：佐伯敦子
 ヘアメイク：小山徳英 吉村英里
 ヘアメイク (樋口可南子)：藤川結生
 フードスタイルリスト：飯島奈美

助監督：石川野巳
 ラインプロデューサー：高根沢淳 岩田 均
 製作：「愛を積みむひと」製作委員会
 制作・配給：アスミック・エース 松竹
 制作プロダクション：松竹撮影所

助成：全文化庁文化芸術振興費補助金
 2015日本・カワー / 15分・シネマスコープサイズ
 ©2015「愛を積みむひと」製作委員会

撮影特別協力：北海道 美瑛町
 特別協力：JAPAN AIRLINES
 HONDA
 MIKIMOTO
 アートセンター
 WCAP株式会社

Asmik Acei
 2015
 WOWOW FILMS
 ai-tsumu.jp

「私がいなくなった後も石を積み続けて、
 私たちの家を完成させてください。
 私は、その石を積みあなたを
 見守っていたと思うのです。」



この作品の写真素材・ロゴ・文字資料は、宣伝情報提供サイト「プレスセンター」にてダウンロードいただけます。
 まだご登録されていない場合は、<http://presscenter.jp/shochiku> にアクセスし、登録作業を行った上で、ご利用下さい。

